# Ｒ７ 第２回 定期学校訪問における各校の授業改善の様子

## １　全体総括

今回の学校訪問を通して、校内研修を核にベクトルを合わせた組織的な授業改善が各校で着実に進展していることが確認できました。若手教員の強みを活かす体制や、略案の書きぶりの統一、単元構想の明確化によるねらいと評価規準の整合性の確保が浸透しつつあり、児童生徒の「学びに向かう力」を育む土台が築かれています。

授業では、対話の必然性を生むペア・グループ活動や、自分の言葉で説明する活動が多くの場面で機能し、自分事として学びを引き受ける姿が広がっています。一方、算数・数学科では、立式の理解や基礎的・基本的な内容の定着に課題が見られる場面があります。意味の理解と使いどころを明確にしながら、段階的な積み上げを支援する取り組みを継続することが求められます。併せて、思考の流れを記録として残すために、ノートには式や答えだけでなく、解法の過程まで記述させる意識を持つことが重要です。

また、全教科共通の課題として、言語活動の充実（書く・説明する・根拠を示す）、振り返りの質的向上（学習の過程に目を向ける・次の学びにつなげる）、ねらい―評価規準―学習活動の整合性の精緻化が引き続き焦点となります。

さらに、小規模校や複式での学習の在り方では、ガイド学習や単元内自由進度学習の活用により、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実が前進しており、自己調整を支える見通しの提示（授業の流れの提示・OPP シートの活用）や、異学年・遠隔交流等による価値観の拡張も効果を上げ始めています。

総じて、学びの系統性を意識した単元構想のもと、「教師の発問の工夫」「対話の場の設計」「振り返りの支援」が共通課題として共有され、児童生徒一人一人の「学びに向かう力」の伸長と、言語活動の充実に向けた実践が定着しつつあります。

## ２　今後の授業改善の方向性

**（１）「対話と振り返りのある授業」による「深い学び」の実装**

児童生徒が自らの考えを言語化し、他者との対話を通じて思考を広げ、深める場を意図的に設けることが重要です。また、学習の過程や成果を振り返る機会を確保することで、自分の学びを客観的に捉え、次の学びにつなげる力を育成します。こうした質の高い「対話」と「振り返り」を単元の学習に組み込むことで、知識の定着にとどまらず、概念理解や活用力を高める「深い学び」を実現します。

**（２）基礎的・基本的な内容の定着に向けた学習支援**

学習の土台となる基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着は、すべての学びの前提です。児童生徒の学習の定着状況を的確に把握し、個々の課題に応じた支援を行うことで、学習のつまずきを早期に解消します。反復練習や活用場面の設定など、学習内容を定着させる工夫を授業に組み込み、学びの自信と意欲を高めることを目指します。

**（３）生徒指導の３機能（４つの視点）を取り入れた授業改善**

授業改善においては、学習指導と生徒指導を一体的に捉えることが求められます。生徒指導の３機能（４つの視点）である「自己存在感の感受」、「共感的な人間関係の育成」、「自己決定の場の提供」、「安全・安心な風土の醸成」を踏まえ、児童生徒が安心して学びに向かえる環境を整えます。授業の中で、自己肯定感を高める場や協働的な活動を取り入れることで、学力とともに社会性や人間関係形成力の育成を図ります。

## ３　今回の訪問で見られた「生徒指導の３機能（４つの視点）」に照らした好事例

### （１）「自己存在感の感受」につながる取組（佐伯東小学校、宇目緑豊小学校、彦陽中学校）

○佐伯東小学校では、各教科で児童が互いの考えを交流する場を設定し、授業者は**発言や「つぶやき」を丁寧に拾って価値づけることで、児童一人一人が自分の考えに意味を見いだし、**安心して発表できる雰囲気をつくっています。その中で、児童は**「自分の意見が仲間に受け止められた」という実感**をもちながら、学習に主体的に向かう姿が見られました。

佐伯東小学校
第３学年 特別の教科 道徳
主題名「本当の友達」

○宇目緑豊小学校では、６年生社会科の授業において、**お互いの考えを肯定的に評価し合うあたたかな雰囲気が醸成されており、児童の主体的な学びを支える土台が築かれている**様子が見受けられました。

宇目緑豊小学校
第６学年 社会科
単元名
「幕府の政治と人々の暮らし」

○彦陽中学校の数学科では、生徒が自分の考えを根拠をもって説明する活動が仕組まれていました。生徒は、互いの考えを比較しながら思考を深める過程で、**自分の意見が仲間に受け止められ、学びに貢献しているという実感を得ていました。**こうした協働的な場面を通して、**自分の存在や役割の価値を感じる**様子が確認できました。

彦陽中学校
第３学年 数学科
単元名「図形の性質と合同」

### （２）「共感的な人間関係の育成」につながる取組（下堅田小学校、昭和中学校、上堅田小学校）

○下堅田小学校では、**「目的意識を持って対話できる児童の育成」を校内研究のテーマに授業改善を進め**、児童が課題を自分事として捉え、学び方や答え方を自分で決める場が意図的に設けられています。２年生国語科では、**ペアで目的を意識しながら意欲的に交流し、対話が途切れず学びが深まっている様子**がうかがえました。

下堅田小学校
第２学年 国語科
教材名「かさこじぞう」

○昭和中学校では、各教科で「説明する力」を育成する授業改善を進める中、**生徒同士の対話が自然に生まれる工夫**が見られました。特に、２年生数学科では、説明活動を本時の中心に位置づけ、**多くの生徒が自分の考えを相手に伝えようと熱心に交流する姿**が確認されました。

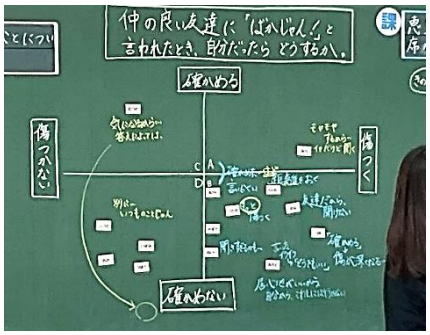
昭和中学校
第２学年 数学科
単元名「平行と合同」

○上堅田小学校では、「タイを生み出す工夫」を校内研修のテーマに据え、児童の主体性を引き出しています。総合的な学習の時間では、**互いの意見を認め合いながら、自分たちの活動の課題を自分たちで見つけ、改善策を積極的に出し合う**姿が見られました。

上堅田小学校
第６学年 総合的な学習の時間
単元名
「上小６年 地域貢献プロジェクト」

## （３）「自己決定の場の提供」につながる取組（八幡小学校、佐伯城南中学校、本匠小学校）

○八幡小学校では、全教職員が校内研修でベクトルを合わせながら授業改善に取り組んでいます。６年生の道徳科では、**教材に示された価値観に触れるだけでなく、「自分だったらどうするか」という視点を持たせながら、自己の言動の在り方について考える活動**が仕組まれていました。この活動を通して、「真の友情を築くために大切なこと」について、**多くの児童が自分の言葉で表現することができていました**。

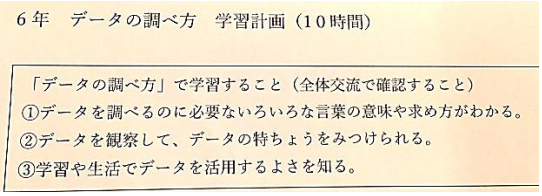



八幡小学校
第６学年 特別の教科 道徳
主題名「友達との間で」

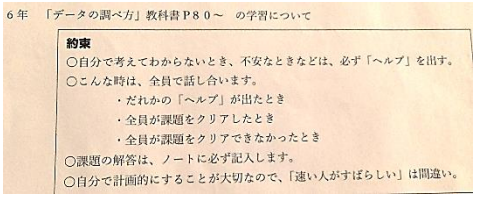
○佐伯城南中学校では、ペアやグループ活動で課題解決に取り組み、説明や意見交換が活発に行われています。**振り返りでは複数の視点での発問により、自分の学びを客観的に捉え、次の学習につなげる姿**が見られました。

佐伯城南中学校　第２学年 国語科
単元名「月夜の浜辺」

○本匠小学校では、算数科の学習を中心に「単元内自由進度学習」の取組を進めています。**児童は自分のペースで学習を進めたり、自分に合った方法を選んだりすることができ、宿題も自ら選択する仕組み**を取り入れています。こうした自己決定の場の提供により、**学びへの主体性が高まり、やる気をもって取り組む姿**が見られます。


６年　データの調べ方　学習計画（１０時間）

「データの調べ方」で学習すること（全体交流で確認すること）
①データを調べるのに必要ないろいろな言葉の意味や求め方がわかる。
②データを観察して、データの特ちょうをみつけられる。
③学習や生活でデータを活用するよさを知る。


６年　「データの調べ方」教科書Ｐ８０～　の学習について

約束
○自分で考えてわからないとき、不安なときなどは、必ず「ヘルプ」を出す。
○こんな時は、全員で話し合います。
・だれかの「ヘルプ」が出たとき
・全員が課題をクリアしたとき
・全員が課題をクリアできなかったとき
○課題の解答は、ノートに必ず記入します。
○自分で計画的にすることが大切なので、「速い人がすばらしい」は間違い。

本匠小学校 第６学年 算数科
単元名「データの調べ方」
※単元内自由進度学習の教室掲示(一部抜粋)

## （４）「安全・安心な風土の醸成」につながる取組（木立小学校、直川小学校、米水津中学校）

○木立小学校では、児童が落ち着いて授業に臨み、集中して学習する姿が見られます。**掲示板の活用や目標設定の取組により、主体的な行動や自立心が育まれています**。また、複式・合同授業の工夫や異学年交流を通して、**互いを認め合う温かな雰囲気を醸成し、安心して学べる環境づくり**を進めています。

木立小学校
第５学年 算数科
単元名「単位量あたりの大きさ」

○直川小学校では、**落ち着いた雰囲気の中で児童が集中して学習に取り組み、教師の問いかけに積極的に反応する姿**が見られます。ICT 活用や教材の工夫により学習意欲を高める環境を整え、**振り返り活動では学習過程を重視し、安心して自己表現できる場を保障**しています。

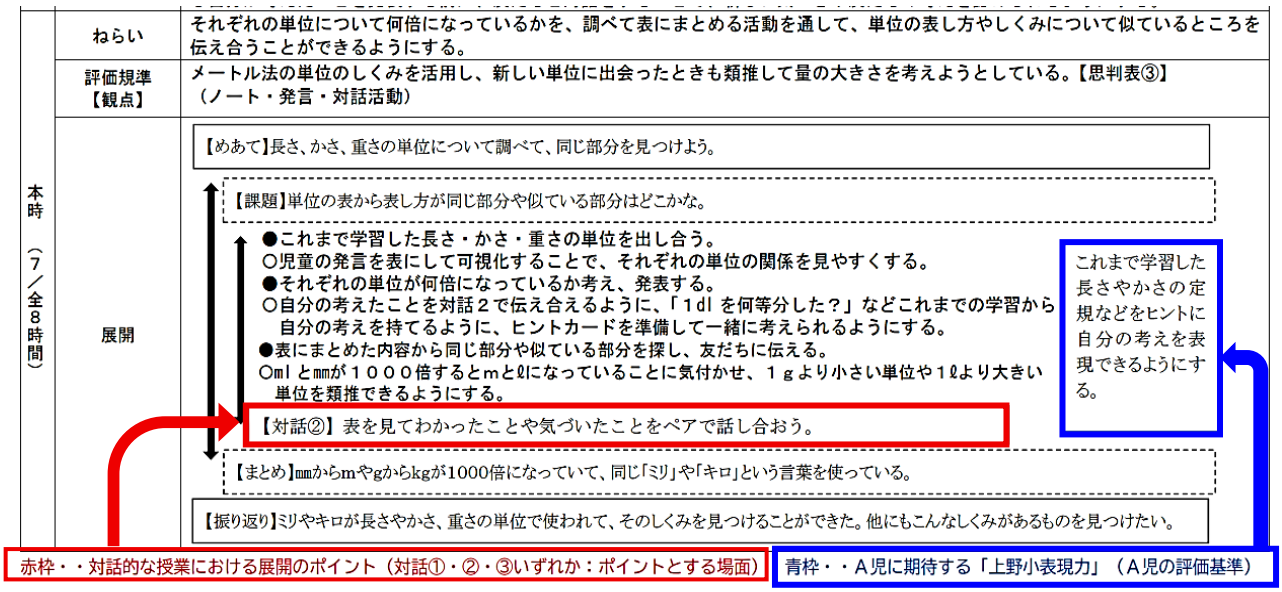
直川小学校
第４学年
外国語活動(英語)
単元名「Unit7 What do you want ?」

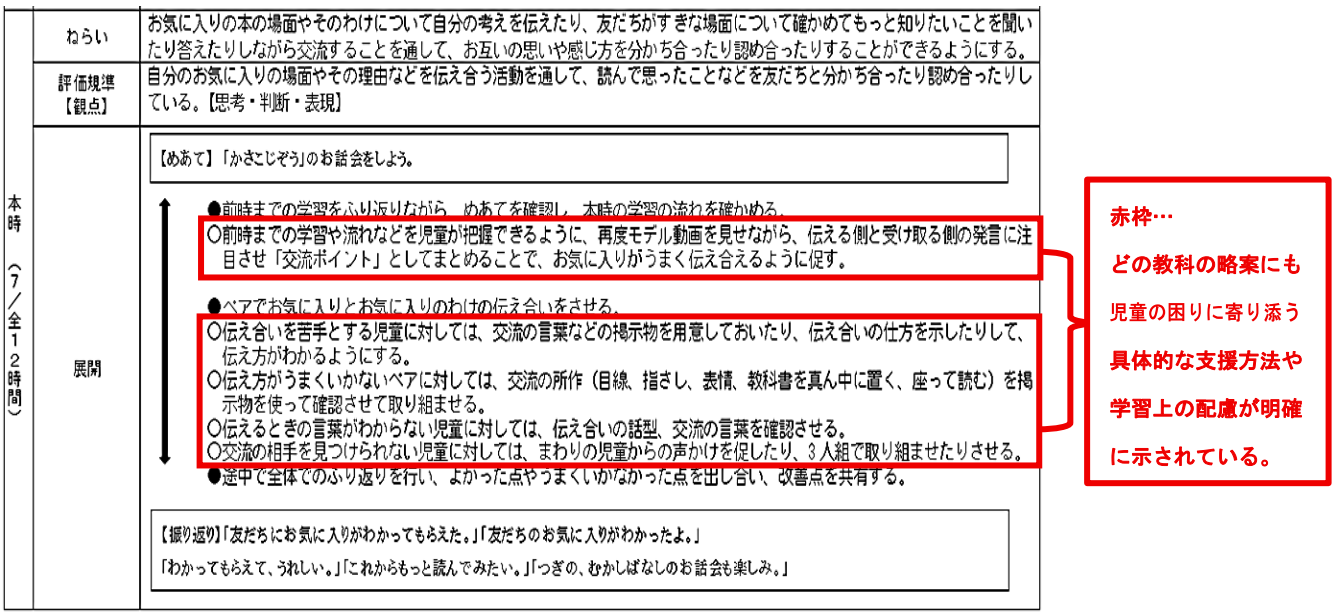
○米水津中学校では、**QU 調査やアンケートを活用して生徒の状況を分析し、安心して学べる学級づくり**を進めています。授業では、国語科で ICT を使った「聞き方」の振り返りや、理科の実験で協力しながら課題に取り組む場面があり、**互いを尊重し合う雰囲気が醸成**されています。こうした取組により、**生徒が主体的に学び、安心して意見を交わす環境**が整っています。

米水津中学校
第２学年 国語科
単元名「聞き上手になろう
～質問で思いや考えを引き出す～」

## （５）組織的な授業改善につながる校内研究の取組（上野小学校、下堅田小学校）

○上野小学校では、**「対話」と「安心・安全な学級づくり」を軸に授業改善**を進めています。**学校独自の「３つの対話」を設定し、児童の具体的な姿を想定した研究を重ねる**ことで、互いの考えを尊重しながら学び合う雰囲気が定着し、深い学びの基盤が築かれています。**略案には「３つの対話」のいずれかが位置づけられ、さらにＡ児（学習に困りを抱える児童）に期待する「上野小表現力」も設定され**、組織的な改善が図られています。授業では、４年生理科で「自分との対話」から「他者との対話」へ自然につなげる流れを構成し、多くのつぶやきが生まれました。１年生算数では、児童の発言を丁寧に拾い、思考に沿った展開を行うことで、自由な発言と授業規律の両立が実現しています。**これらの取組により、児童の対話する姿に変容が見られ、他教科や日常生活への波及**も期待されます。




○下堅田小学校では、**特別支援教育の視点を踏まえた授業改善が組織的に浸透し、児童一人一人の困りに寄り添う具体的な支援**が丁寧に行われています。**略案には、個別の支援方法や学習上の配慮が明確に示され、授業中も教師が児童の様子を細かく見取りながら、適切な声かけや支援を行う姿**が見られます。こうした取組により、**児童は安心して学習に参加でき、困りを抱える児童も自分のペースで学びを進めることができています**。また、校内研究では、目的意識をもった対話の場面を設計し、児童が互いに認め合いながら交流する雰囲気を醸成しています。